

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年9月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 6名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3891300133
事業所名 (ユニット名)	認知症対応型共同生活介護事業所 くりのみ土居 Gユニット
記入者(管理者) 氏名	河村 美樹
自己評価作成日	平成30年 8月 17日

<p>【事業所理念】 一、その日その時を穏やかに普通に楽しく生活できる 一、必要なときにその方にあったサポートができるケアを目指す 一、地域での生活が送れるように地域との交流を図る 【グループホーム理念】 和顔愛語～和やかな笑顔と思いやりのある言葉で、居心地のよい暮らしの場を提供する～</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①法人としての理念の理解と共に、グループホームとしての行動指針を職員間で話し合い実践に繋げる→スタッフが「こうあってほしい」と思うグループホームの姿を思い、一人ひとりが考え案を出し、ミーティングでの話し合いを行って決めた。 ②職員の緊急連絡網の実際の活用→作成を行い連絡がとれる体制を行っているが、実際の活用までにはいたっていない。 ③運営推進会議への家族の参加率の低下、また地区の自治会長の参加について→家族への参加の声掛けは引き続き行っているが、なかなか参加へ繋げることができていない。 ④家族からの意見箱の利用が少ない、家族同士の意見を交わせる家族会の開催について→家族からの意見は、面会時などに直接伺えるよう対応している。また、言いにくいことなどは意見箱の利用を行っていただくよう、声掛けも行っている。家族会の開催については、現在も開催に向けては色々考えている。 ⑤入居者の個別記録の中に、ケアプランで挙げている内容が打ち込まれているか→ケアプランの内容を見返せるように別ファイルを作成し、内容を振り返りながら記録を行っている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護が併設された複合施設の2階にあり、北側テラスからは瀬戸内海に浮かぶ島々を望むことができる。母体医療機関が整形外科であるため、リハビリに力を入れている。敷地内にあるリハビリ施設も充実しており恵まれた環境となっている。職員は、利用者が自宅の延長としての生活が継続できるように機能の維持を図りたいと考えており、自立に向けた支援を目指している。</p>
---	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者との日常会話の中や家族の面会時等を利用し、本人の希望や意向の把握に努めている。	◎	/	○	日常会話の中で利用者や家族の意向や希望を把握するように努めており、申し送りやミーティングでスタッフ間の共有を図っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	普段からの観察や申し送りなどを行いながら、ミーティングやカンファレンスを通して職員全員で検討を行っている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族には面会の時を利用し、近況や普段の様子などをお伝え話を行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	聞いたことは職員間で申し送ったり、個別シートに記入して情報の共有を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人に話を行い意思の確認を行うが、返事が曖昧だったり返答がない場合は、以前の行動や本人の状態から偏った思い込みで決めつけてしまうこともある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時に本人や家族、ケアマネ等から情報を伺うようにしており、得られた情報は個別シートに記入を行い職員間で情報共有を行っている。	/	/	◎	入居の際、利用者や家族から聞き取るほか、ケアマネジャーやこれまで利用していたサービス事業者などからも情報を得て、生活歴や暮らし方、こだわりや生活環境などを把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	本人の表情や言動、状態で気づいたこと等は、職員間で申し送ったりミーティングを利用して話し合いを行ったりしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の様子の中より気づいたこと等は、介護記録に記入したり職員間で申し送りをしたり、ミーティングにて情報共有を行っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	毎朝の申し送りの時間を活用し、一日を通しての様子だったり、その時の状態や気づき等を話し合ったりしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録の他に、排泄記録やバイタル処遇表を活用し日々の変化や違いの把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンスで話し合い、家族が面会に来た時には相談をしたりしている。	/	/	◎	日々の生活の様子を観察し、ミーティングやカンファレンスで話し合い、利用者が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	ミーティングやカンファレンス、モニタリングを行い、必要に応じてケアプランの見直しを行っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人らしく生活を送れるように、日々の生活の気づきに対して職員間で話を行い確認を行っている。	/	/	/	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族に意見等を伺ったり、日頃から本人の思いや意向を伺えるように努めている。	/	/	/	計画作成担当者は、利用者一人ひとりについて担当者に毎月「状況報告書」を書いてもらい、それをもとに主治医や家族からの意見を取り入れカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	主治医からの話や家族からの意見の聞き取りをして、職員間で話し合いを行いながら本人様の生活に反映できるように努めている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	慣れ親しんだ暮らしというよりは、現状その方の体調や状態に合わせた内容であるが、状態が悪くなっても極力は生活状況を変えないようにはしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族と外出を行ったり、地域の行事に参加してもらえるようにしているが、地域の方たちの協力体制を盛り込んだ内容は組み込まれていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランの内容をまとめて置いており、いつでも確認できるようにしている。	/	/	◎	利用者一人ひとりの介護計画をファイルに綴じ共有しており、介護計画に沿ったケアが実践できたか確認しながら介護記録に記入するようにしている。日々の暮らしの様子、職員の気づきや工夫、アイデアについては個々の介護記録に記載の上ミーティングやカンファレンスで共有し、日々の支援につなげている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	ケアプランの内容を確認しながら、日々の変化等は申し送りを利用し、月一回その方の状況をまとめており、まとめたことについてはミーティングやカンファレンスで話を行い、今後の支援について検討を行っている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個々の介護記録に記録を行っている。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ミーティングやカンファレンスの際に出た意見等の記録を行ったりしている。また、気付いたことについては、職員間で話し合い確認し合うように努めている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	職員で個人の振り返りを毎月行い、3か月に一回モニタリングを行っている。	/	/	◎	介護計画については、毎月担当者が評価を行い、3か月に1回モニタリングを実施、6か月に1回見直している。利用者の状況に変化のない場合も、毎月ミーティングで担当者の状況報告を共有し検討している。本人の状態に変化があった場合は、その都度主治医や家族、その他関係者と話し合い見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	職員が数名担当の方を持ち、毎月1回は個人の現状確認を行っている。ミーティングを利用したり申し送りで、気になること等を話したりしている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態の変化があった場合は、その都度家族や本人等と話し合い見直しを行っている。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月に2回ミーティングを行っており、緊急案件などがある場合は随時職員で集まって話し合いを行っている。	/	/	○	月2回のミーティング時にカンファレンスを開催し、課題解決のための話し合いを行っている。緊急案件がある場合にはその都度職員が集まり話し合っている。カンファレンスの詳細は、ケアプランファイルのカンファレンス記録で確認できる。会議に参加できなかった職員は、管理者からの伝達や申し送りノートでも情報を共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ユニットのリビングを利用し、リーダーを中心として意見を問いかけ、みんなが活発に意見交換ができるような雰囲気作りを行いながら、話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	開催週・時間を固定しており、予め次の開催日時を前もって職員へ連絡を行っているが、都合の合わない方もおりなかなか全員参加とはいかない。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	リーダーの方で話し合った内容をまとめた報告書を作成し、申し送りなどで伝達を行うようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを活用したり、申し送りやミーティングでの情報共有を行っている。	/	/	◎	日々の申し送りやミーティングの内容はそれぞれの記録に詳細に記入し、確認の上サインして職員全員で共有するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートになるべく細かく記入を行い、不在時の内容もわかるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	一人ひとりのしたいことへの対応は難しいが、日頃より会話の中でしたいことを伺ったりしており、天候なども見て急遽出かけたりすることもある。	/	/	/	朝の更衣時の洋服選びや入浴など、声かけを行い自己決定できる機会を作っている。訪問時、みんなでカラオケをしていたが、利用者に好きな曲を選んでもらい、特に気が向かない利用者は自由に過ごされていた。職員は、利用者一人ひとりの好きなこと、趣味等を把握しており、表情を見ながら声かけするなど配慮した支援に努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	おやつやレクリエーションを行う時など、本人のしたいこと、欲しい物を伺いながら対応を行っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	会話の中より、それぞれの思いが引き出せるように声かけの工夫を行ったりしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	可能な限りの対応を行っているが、一日の大半はほぼ決まった感じで動かれている。夕方以降はゆったりできるので、好きなように時間を過ごしていただいている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人ひとりにあった声かけを行い、その方が意欲を持って何事も取り組めるように対応を行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情やしぐさ、反応等から汲み取るように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	法人内で勉強会を行い学んでいる。また、ポスターの設置を委員会の方でも行っており、目につく形にして、いつでも振り返りを行えるようにしている。	◎	◎	◎	法人全体で接遇研修があり、職員は人権や尊厳について常に意識している。排泄の誘導なども「お部屋にもどりましょうか」など、さりげない声かけに努めている。居室への出入りは、必ずノックと声かけを行っているが、居室に利用者が不在の場合は、職員は利用者が戻るのを待って声かけをしてから一緒に入室するなど、配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	本人のプライドを傷つけないように、さりげない声掛けや誘導を行うように努めている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	入浴は一人ひとりの対応にて行っている。排泄等はその方の状態に合わせて、職員が一旦退室した後は終わったらコールを鳴らしてもらったり、少し離れて見守りを行ったりしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る前には、必ずノックを行うようにしている。また、部屋のドアは開けっ放しにならないように努めている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に守秘義務について書類を記入している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として、昔の様子を覚えてもらったり何かをしていただいたりしたら、感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	職員は利用者の性格や利用者同士の関係を把握しており、様子を見ながら少し何か感じたときには席を離すなど、大きなトラブルに発展しないよう配慮している。帰宅願望がある利用者には「どしたん、こっちに来て一緒にいるや」と優しく声をかけてくれたりする利用者もいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	スタッフだけでなく、利用者同士で話を行ったりしている時は、見守りして関係性を大切にできるようにしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	難聴の利用者には、職員が間に入って対応を行ったりしている。また、なるべく仲の良い方との座席だったり外出だたりを行えるように努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	時間を置いてから、お互いの主張を聞くように努めている。	/	/	/	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族との話して聞いたり、利用者との日常会話の中で聞いたりして把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	個別ファイルを利用し、日常会話の中から把握できるように努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	家人に協力を得ながら、行きたいところへ行けるよう支援を行っている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会に来られた時には、居室やラウンジなどでゆっくりと過ごしてもらえるよう、お茶を出したりしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	平日、午後からはリハビリを行っており、戸外へ出て行き気分転換を図ったりしている。	○	○	○	火・木以外の平日は午後から同敷地にあるリハビリ施設に全員で出かけている。短距離ではあるが、外の空気を吸い気分転換にもなっている。利用者は意欲を持って出かけており、外出時間が近づくと自主的に玄関に集まっている様子が窺えた。重度の利用者も含め、その日の気分や状態に応じ、リハビリのため散歩などの外出支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出支援でのボランティアや認知症サポーター等の協力は得ていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	その日の体調や状態に応じて、対応を行えるように努めている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族の協力を得ながら、普段は行けない遠方への外出をされたり、お墓参りに行かれたりされている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	法人内の勉強会にて学んでいる。一人ひとりの症状・状態がしっかりと観察できるように努めている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの「できること、できないこと」について、ミーティングで話し合い把握しており、それぞれの残存能力が活かせるよう常に心がけ支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	リハビリや生活リハビリを行ったりして、利用者の機能低下を防げるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	利用者本人ができるところまではしていただけるように支援している。無理はせず、調子が悪いような時は、介助を行ったりもしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個別シートや日々の会話を通したり、家族からの話を伺ったりしながら把握に努めている。	/	/	/	利用者が自分でやれることをできるように声かけしている。食後に利用者が自主的に下膳する様子が見られたが、食事作りは法人施設の厨房、洗濯は外注など、事業所外で行っており、利用者の役割や出番が少ないため、利用者の喜びや生きがいにつながる新たな取組みに期待したい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	その日の状態に応じて、家事や作業で協力してもらったり、役割を持って取り組んでもらえるように努めている。	◎	◎	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域での行事や、保育園児・小学生との交流をしながら、楽しみが持てるように支援を行っている。	/	/	/	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人が着たい物を選んで着ていただきながら、身だしなみを整えられるように努めている。	/	/	/	整容の乱れや汚れに関しては、利用者が不快な思いをしないように、さりげなく居室へ誘導し対応している。重度な状態であっても、外出時の洋服は家族から依頼されたものや本人に似あう色を選び本人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	毛染めを希望される場合は、美容室へ行かれたり、普段よりお化粧をされている方もおられる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	服を選んだりする場合に、好みやこだわりを考慮しながら支援を行っている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の思いを優先しながら、季節に応じたその人らしい服装になるよう支援をしている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	入浴やトイレの誘導などを勧めたりして、さりげなく促せるように対応を行っている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	利用者が希望する場合は、家族と相談し慣れ親しんだ美容室を利用したりしている。希望のない方は、一か月に二回理髪店の訪問があり希望を伺っての利用を行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	以前の好みやこだわりを考慮し、服を選んだり家族に準備してもらったりしている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	健康維持の為、また生活の中での楽しみの一つとして重要であることを理解している。	/	/	/	施設の厨房で作ったものを事業所で職員が盛り付けており、一連の工程に利用者の関与はないため、今後は何か利用者ができることを見つけ取り組んでもらうよう努めて欲しい。献立は、法人の栄養士が季節や行事を考えて作成している。栄養士は定期的に嗜好調査を行い、利用者の食べたいものを把握して献立に反映させているが、時には昔なつかしいものを取り入れるなどの工夫に期待したい。箸や湯飲みなどは使い慣れたものを持参し使用しており、状態が変われば使いやすい食器に変更するなど配慮している。訪問時職員は食事サポートのため見守っている様子が窺えたが、同じ食卓を囲んで食事をするのではないため一緒に食事することを検討して欲しい。事業所で調理はしていないが、食事の盛り付けや準備はリビングで行っており、重度等状態にかかわらず、音や匂いは十分に感じられる。献立については、月1回の給食委員会で栄養士に相談しているが、職員間で話し合うことがないため、今後は利用者がバランスの取れた栄養が摂れるよう職員全員で共有するよう努めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	献立や調理は栄養士や調理員が行っている。盛り付けの方は、職員で行っている。	/	/	×	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食後の片付けや拭きなどを、常にではないが声をかけて行ってもらったりしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	家族や利用者の話を伺い、入居時の個人シートに記入を行っている。また、生活中にも出てきた場合は、追加して記入するようにしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	×	献立の作成は、季節感・栄養・バランスを考えて、栄養士が作成している。	/	/	△	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	その方に合わせた調理方法を厨房にお願いしたり、職員で対応を行ったりしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	お箸・湯呑はご自分で使っていたもの等を持ってきてもらって使っている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	×	見守り・様子観察は行っているが、一緒に食べることは行っていない。	/	/	×	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	調理は行っていないが、その日の食事は目に見える形で提示し、話題で話をしたりメニューを読み上げたりしている。	◎	/	△	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事摂取の確認ができるように記録表作成し、個別記録表への記入も行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事量減少の原因を探り、食事形態や飲み物、トロミ等の検討を行っている。また、かかりつけ医に報告・相談も行っている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	給食委員会にて栄養士に相談を行っており、職員間で話すことは少ない。	/	/	×			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	栄養士の管理の元、衛生面には十分注意を行っている。	/	/	/			

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修や歯科往診時、口腔ケアの必要性や重要性について学び理解をしている。	/	/	/	歯科の往診記録表を確認し、利用者一人ひとりの口の中の健康状態を把握している。毎食後、居室の洗面所に誘導し歯磨きの声かけを行っており、見守りや介助を行いながら口腔内の確認をするなど清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	個別の歯科往診記録表を作り、口腔内の状態の把握に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	一か月に一回衛生指導、二〜三か月一回歯科医の往診あり、口腔内の状態を診ていただき指導を受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	声かけを行ったり、個人でできなかったりできない所は、介助を行ったりしている。洗浄剤の使用も行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。見守りを行う中で、利用者からの訴えがあれば、口腔内の観察を行ったりしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	歯や歯茎の状態が悪い場合は、歯科医に相談したり往診に来てもらったり、受診に行ったりしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	法人内の勉強会にて学んでいる。個別の排泄状況の把握に努めて、声掛け・誘導を行っている。	/	/	/	各居室にトイレが備え付けられ、夜間も廊下に出ずに安全に排泄できるよう配慮されている。排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングをみて声かけを行いトイレ誘導するなど、日中は全員トイレで排泄することを基本にした支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	勉強会で学んだことから、個々の状態を観察しながらその方への影響は何かを探るよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を利用した把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	排泄状況を把握し、タイミングを見てトイレへの声掛け・誘導を行っている。時間帯に応じたパットの利用も行っている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	運動量や水分量、食事については、かかりつけ医や主治医に相談行ったり、ミーティングや申し送りで行い検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄チェック表を利用して、誘導や声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員だけでなく、必ず家族への報告・了解をいただき、利用者にも説明を行っている。状態に合わせて使いやすい物を検討できるように努めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	時間帯や尿量等に応じて、紙パンツやパットの使い分けを行っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	水分補給や運動を心がけているが、緩下剤の使用に至る場合もある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入浴は週三回行っており、曜日は決まっている。湯船につかる長さや温度などは、利用者の希望に添えるように努めているが、その日の状態等に応じての対応をさせていただくこともある。	◎	/	△	湯船につかる時間や入浴剤の使用など、利用者の好みに応じた支援に努めている。週3回入浴が基本であるが、日によっては職員の都合に合わせているため、臨機応変な対応にも努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯船につかっている時には、カーテンを引かせてもらったり、利用者から見えない位置で見守りを行うよう努めている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	本人ができることは、見守りのみ行っている。できない・できない所は、職員が介助を行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	拒否する人には、上手に理由を伺いながら、利用者が面倒だと思うこと等に対して、お手伝いを行ったりしながら入浴を促している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前、入浴中、入浴後の体調の変化には、十分注意を行うように努めている。	/	/	/	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	介護記録への記入を行い、申し送りでも職員間で共有できるようにしている。	/	/	/	不眠が続くなどやむを得ない場合は、医師に相談し睡眠導入剤を使用することもあるが、日中の活動量を増やすなど、薬剤に頼らない支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動量を増やしたり、排泄状態のチェックを行ったりして、様子を見ながら取り組めるようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	本人に無理のないように対応を行っている。かかりつけ医や家族等と相談を行ったりもしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者の意思や状態により、休んでいただいたりしている。スタッフで見極めて、休む時間を作ったりしている方もいる。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望される方には、電話や手紙のやり取りができるように支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	年賀状やお誕生日のお祝いのお礼等、利用者に声をかけて職員が間に入り支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	今の所、電話に対しての支援はできていない。今後の対応に繋げていきたい。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙や品物が届いた場合は、家族に連絡を行い報告している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	×	電話や手紙に対しては、お願いは行っていないが、面会時は利用者と家族がゆっくりと時間が持てるように配慮している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	利用者がお金を持って管理をしていることを、職員が把握している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	買い物に行かれたり、美容室に行かれたりした際にご自分で支払いを行ってもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物の際には、家族や職員の支援で理解や協力を働きかけているが、日常的には行えていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談を行いながら、希望のある場合は、小額の所持は行ってもらっている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	基本的には所持しないように決めており、希望がある場合に家族と相談し、本人にお金の管理をってもらうようにしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	持っていて管理ができにくくなった場合には、家族と相談を行っている。外食等へ行った際には、レシートの他にこちらから会計報告としてプリントをお渡しさせていただいている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	利用者や家族の希望や状況に応じて、できる限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	◎	/	◎	好きなお菓子など家族からの差し入れがあった場合、利用者が希望する時間帯に居室で提供するなど柔軟に対応している。受診についても、家族の都合が悪い時には職員が付き添うなど希望に応じている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	来て下さる方へ不快感を与えないように、整理したり清潔保持に努めている。	◎	◎	◎	玄関はきれいに整理整頓され清潔感が感じられ、来訪者は気持ちがよく入りやすい雰囲気が漂っている。施設入口には手洗いも備え付けられるなど配慮されている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気を大切に、落ち着いて生活できるように努めている。	◎	◎	○	事業所は、居室も含めリビング、廊下も全てたたみが敷き詰められており、スリッパもいない心地よいフロアになっている。ベランダには園芸スペースがあり、利用者は四季折々の花を栽培しており、家族が持ってきてくれる花と合わせて食卓に飾られている。壁には紙を小さな四角に折り、色を塗ってニスで塗りタイルのように仕上げている作品や写真が飾られている。毎日掃除され清潔感のある空間となっているが、日々の利用者の活動の様子が窺える工夫があれば、さらに家庭的な雰囲気になると期待できる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除や換気を行っており、清潔の維持に努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	園芸にて季節の花を育てたり、それをリビング等に飾り利用者を楽しんでもらえるようにしている。また、季節によって野菜を育てたりして、採った物をみんなで食べたりもしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	個室で過ごされたり、リビングでは座席に配慮したりしている。ラウンジでは、外を見ながら過ごせるように椅子を配置したりしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	使用時には、必ず戸を閉めるようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居の際に、使い慣れた物や馴染みの物、家族写真等をご持参いただき飾ったりしている。	◎	/	○	居室には、トイレや洗面所、クローゼットのほか、ベッド、たんす、チェスト、テレビ、冷蔵庫、エアコンなどの備品が備え付けられている。各々家族写真やぬいぐるみなどの好みの物を持ち込むことができ、居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	全居室個室になっており、一人ひとりが思うように生活できるようになっている。トイレや部屋が分かりにくい場合は、目印をつけて分かりやすく表示を行っている。	/	/	/	居室が分かりにくい人には、入口に目印をつけたり、たんすの引き出しに内容表示をするなど、自立した生活が送れるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	家族の話を伺いながら、職員間で話し合い対応を行うようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	季節にあった掲示物を一緒に作って飾ったり、季節の花や野菜を育てたりしている。雑誌等も気軽に読めるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	代表者及び全職員が鍵をかける事の弊害を、法人内の勉強会などを通して学んでいる。	◎	◎	○	代表者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は施錠しておらず自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	その都度、現在の利用者の状態を交えながら説明を行い、理解をしてもらっている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関センサーを設置し、日中・夜間共に施錠は行っていない。利用者の居場所確認は、必ず行うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	いつでも確認できるように個別ファイルの利用を行っている。追加事項があれば、都度記入するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎日、血圧・検温・脈拍の測定を行っており、月一回体重測定・SPO2の測定も行っている。経過記録表に記載を行い、職員間で周知している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	職員に看護職もあり、訪問看護や協力医、かかりつけ医とも連絡・相談が行えるように努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前より診ていただいている医療機関の確認と、往診にて診てもらえる所等、入居前に説明を行い家族と相談し対応・支援をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族に確認を取りながら、適切な医療を受けられるよう努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	家族との通院時には、こちらの様子を先生にも伝えてもらえるように情報提供を行っており、通院後は職員が結果を伺うように対応している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	手続きの際に情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は、お見舞いに伺ったり看護師やソーシャルワーカーから話を伺ったりして情報収集を行えるように努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	受診の際に、日頃の様子などもお伝えし何かあれば相談を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気づいたことがあれば、訪問看護師や常勤看護師へ伝え、相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医・看護師とも相談ができる体制である。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の観察から変化や異常があった場合には、都度看護師や協力医へ相談を行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	カルテに内服薬に関する説明書を入れており、内服薬についてはほぼ理解している。副作用についてまでは理解できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬チェック表等を作り、一回の服薬までに2人の職員が確認できるようになっている。また、誤認防止の為に薬にチェックを付けながら声に出して確認を行い服用してもらっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日々の小さな様子の違いなどにも気を配り、服用を行っている薬の確認や、主治医への報告・相談を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	申し送りにて職員が共有し、家族や協力医に情報を伝えている。				

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	状態変化の状況により、家族の現在の意向の確認を行っている。	/	/	/	重度化や終末期のあり方に関しては、かかりつけ医や協力医療機関等と相談し、家族等関係者とも情報を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	主治医や協力医療機関等へ相談し、情報を共有している。その都度必要な処置等の検討を行っている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	重度化・終末期に不安を抱える職員も少なくはなく、連絡体制の整備等、都度説明を行い支援できるよう努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	ホームで「できること」「できないこと」は、家族へ説明行い理解を得ている。段階に応じた家族の意向も都度確認を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	日々の様子を見ながら、医療関係者・家族との連携を図っている。変化があった場合には、家族の意向を確認しながら支援を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを傾聴し、理解するよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	外部や法人内での勉強会を通して予防策等を学び、流行が見られた場合は、委員会からの注意喚起にて再確認を行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	現場にマニュアルを設置しており、発生時には速やかに対応できるように努めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	新聞やテレビの報道、運営推進会議や医療機関からの情報収集を行っている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	感染症流行期には、マスク着用・手洗い・手指消毒や手すり拭き等を徹底して行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員、利用者共に声かけを行い、マスク着用や手指手洗い・消毒を行う。来訪者にも声かけ行い、同じようにマスク着用等を行っていただく。玄関先には常時、マスクと消毒を置いてある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	お便りを送ったり面会の際には、利用者の様子や近況報告を行えるようにしている。				家族に行事の声かけを行っているが、仕事や地域の行事などのため、参加につながっていないのが現状で、家族が参加しやすいよう日程の調整をするなどの工夫に期待したい。年に3~4回お便りを出し、表情が分かりやすいように写真を多く入れ、利用者の様子を報告しており、その際に次のイベントや行事の予定についても案内している。来訪の機会が少ない家族にも、月に1回は用事で電話する機会があり、その時に話をしている。行事以外の設備改修や機器の導入、職員の異動等については運営推進会議では報告しているが、会議参加者に限られているため、家族全員に報告するよう努めて欲しい。家族には面会時に職員が声かけをし、利用者の日頃の様子を伝えるなど、コミュニケーションを図るよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	飲み物をお出ししたりして、くつろいで過ごしていただけるように配慮している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	夏祭りや敬老会等、イベントには案内をし参加の声かけを行っている。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	年三~四回程、写真入りのお便りをお出ししており、利用者にも一筆書いてもらった年賀状を出したりしている。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	日頃より家族とのコミュニケーションを図れるように努め、近況報告を行いながら話を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者のホームでの生活の様子や病状等の説明や対応の仕方を理解していただけるようにし、利用者・家族とのよい関係作りができるように努めている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時等に報告ができるように努めている。	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	◎	行事への参加などの案内を送り、参加が出来る機会を作っている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	予想されるリスクについての説明をあらかじめ行い、病状等変化があった場合等にも必ず対応を行っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時、職員からの挨拶や日頃の様子を伝えたりして、コミュニケーションが図れるように努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約書を一緒に確認しながら、理解・納得を得られるように努めている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	入院や特養入所等になった場合は、家族と相談し対応をしている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	入居時に説明を行い同意をいただいている。改定時には、同様に説明を行い同意をいただいている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所開設時には、地域住民や自治会などに説明し、理解・協力をいただいている。	/	◎	/	運営推進会議で地区の民生委員から地域行事への誘いがあり、イベントに参加し保育園児や小学生などとの交流もあるなど、地域との関係は深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	地域のイベントへの参加や、保育園児や小学生との交流を行っている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	相談員など、一年間を通して特に変化はない。	/	/	/	
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや行事で、地域の方が立ち寄って下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	施設の回りに畑が多く、作業をされている方や散歩をされている方に声をかけたり挨拶をしたりしているが、日常的なお付き合いはできていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	笑いヨガや輪の会、小学生や保育園児の慰問等を通して、利用者の生活の充実を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	家族の協力も得ながら、敬老会への参加を行ったりしている。また、馴染みの美容室へも行ったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	理髪店や学生の訪問があり、消防には勉強会や避難訓練等に来てもらっており関係を深める取り組みを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族への声かけを行っているが、都合がつかずに不参加のことが多い。利用者や地域の人等の参加は毎回ある。	△	/	△	家族の参加がないため、日程や時間帯など家族が参加しやすいよう調整するなど工夫して欲しい。外部評価等の取組み状況については、運営推進会議で報告するようにしているが、参加者が固定化し、新たな提案などないのが現状である。今後は地域包括支援センター職員などの参加も予定されており、活発な意見が得られるよう議題の工夫等に期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	外部評価の結果がまとまり次第、運営推進会議にて報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	運営推進会議では、意見・感想はいただくが提案等は少ない。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	会議の最後に、次の開催日をお伝えさせていただいている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	会議開催後には、議事録を作成し高齢介護課に提出している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム内の見える場所に提示し、いつでも確認できるようにして取り組んでいる。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ホーム内に提示し、誰でも見えるようにしている。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修案内等を配布・周知している。また、各職員の職種や力量に合わせた声かけをしている。				代表者はストレスチェックを毎年行うなど、職員のストレス軽減に努めるなど働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。法人全体のレクリエーションでバレー大会を実施し、仕事以外での職員のコミュニケーションの場づくりも行うなど、職員同士の連携が図れるよう努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	勉強会への積極的な参加の声かけを行ったりしている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	職員に対しての資格取得に向けた支援を行ったりしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	案内があれば参加を行い、意識向上に繋げている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	毎年ストレスチェックを行ったり、仕事以外で憩える場作りを行ったりしている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	法人内の勉強会にて学んでいる。				法人の勉強会や月2回のミーティングでも話し合うなど、虐待等不適切なケアを見つけた場合の対応方法や手順について共有するよう努めている。不適切なケアに気づいた時には、上司に報告しミーティングで話し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	職員がなるべく早くケアについての振り返りが行えるように、話す機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	法人内の勉強会で学んだことを報告するようにしている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員一人ひとりに対して、声かけを行い表情・態度等に注意を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	法人内の勉強会に参加し、理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	申し送りやスタッフミーティング時にスタッフ同士での意見交換を行い、確認しながら対応を行っている。委員会での話し合いや検討も行っている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族にも納得していただき、利用者にも不安なく過ごしていただけるような対応を心掛けている。				

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	◎	法人内の勉強会にて学び、報告書の作成を行っている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	今のところ利用者・家族からの相談はあがっていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターやケアマネージャー等へ相談できるようにしている。また、パンフレット等の準備を行い情報提供を行えるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	ホーム内の見える位置に提示している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	一年に一回、消防職員に講師に来てもらい、人工呼吸の仕方やAEDの使い方を教わっている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	委員会へ件数等をまとめて報告を行っている。職員間でも、ミーティングを利用し、職員間で検討を行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	月二回行っているミーティング等を利用し、利用者の状態などについて職員間で話し合い、事故防止に取り組めるように努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルは見えるところに置いてあり、いつでも確認を行えるようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	二か月に一回の運営推進会議にて、毎回報告を行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対しては速やかに報告を行い、スタッフ間で話し合い検討を行っていくようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	二か月に一回、運営推進会議を開催している。話しやすい場所や雰囲気作りを行い、話を伺ったりしている。	/	/	○	利用者が話しやすい雰囲気づくりを行い、意見や要望等を把握するよう努めている。家族からは、相談窓口や意見箱を設置し意見等を伺うようにしているが、運営推進会議等への参加がないため、あまり意見等を伺っていないのが現状である。今後は家族会を開催するなど、家族からの意見等の集約に期待したい。管理者は現場に立って職員の意見に耳を傾けており、職員から出された活発な提案を利用者本位の支援に反映させている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	二～三か月に一回のホームのお便りを利用しての声かけであったり、ホーム出入口の所に意見箱を設けている。	◎	/	△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	面会時には、なるべく家族との話の時間が持てるように努めている。窓口に関しては、ユニットの見える場所に提示を行ったりしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	日々の日報を利用し、職員の意見や要望を聞いてくださり、現場に足を運んでアドバイスを下さったりする。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	常に現場の状況の把握に努め、職員一人ひとりの意見や提案などが聞けるようにしたり、声かけを行ったりして聞く機会を設けたりしている。	/	/	◎	

愛媛県認知症対応型共同生活介護事業所くりのみ土居

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	外部評価には説明を行い、職員全員で取り組むようにしている。				自己評価や外部評価結果については運営推進会議で報告しているが、参加者に取組みのモニターをしてもらうまでには至っていないので、事業所の取組みを参加者に理解してもらい、モニターとしての役割を担ってもらえるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価の内容や結果、課題等は、職員全員で確認・共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	なるべくはその内容に向けて動けるようにしているが、時間をかけて取り組んでいるものもある。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議等で報告している。家人へは、面会時等を利用し、手渡しにて説明・周知を行っている。(面会を利用できない方へは、郵送を利用したりしている。)	×	×	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取組みの成果を確認している。	×	出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	風水害避難訓練・地震訓練・防火訓練・防犯訓練等を実施しており、非常災害対策マニュアルもあり職員間で確認・共有している。				年2回消防署の協力を得て、複合施設全体で風水害自主避難訓練や防火訓練を実施しているが、地域住民の参加が得られていない。昨年から地域の一部避難場所に指定されており、今後は地域住民や近隣の事業所との連携や協力体制を構築し、災害時の利用者の安全確保に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	対策委員企画の元、日中・夜間想定や様々な状況を想定して訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	対策委員、厨房職員にて、定期的な点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	地域の自治会との連携を図り、当施設が地域での一時避難場所になっている。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	市の出前講座を利用して、防災の事について学んだりしている。地域の方の参加もあり、地域の状況についての情報を共有している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今の所の実績はないが、今後情報発信や啓発活動等が出来るようになっていきたいと思っている。				複合施設全体で入所希望や見学を受け入れてはいるが、具体的な相談支援には至っていないため、事業所のPRに努めるなど、相談ニーズを集約するような取組みに期待したい。地域イベントなどには積極的に参加しており、地区の小学校や保育園との交流や学生の介護体験の受け入れなど、地域の拠点としての一端を担っており、地域との連携や協力体制は築けている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	今の所の実績はない。相談があれば適切な支援ができるようにしていきたい。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	フラダンスの教室にスタジオを開放している。夏祭りのイベントには、地域の方への声かけを行い、参加してもらっている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	学生の介護体験などの受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	地域イベントには積極的に参加している(三島笹飾り・どい福祉まつりなど)。			○	